

## 式辞

只今、ご紹介に与りましたわたくしは、岐阜県立 華陽フロンティア高等学校 創立九十周年 感謝記念事業 実行委員会 実行委員長の廣瀬でございます。新型コロナウイルス感染症が世の中に蔓延しはじめた約3年前に本 実行委員会が立ち上がりました。ですから、これに伴う、人間社会の未曾有の経験について、言及しないわけにはいきません。コロナ禍において 亡くなられた方々に 心からお悔やみを申し上げますとともに、今なお この感染症と闘っておられる方々に 心よりお見舞いを申し上げますと共に、医療関係者を始めとする社会基盤を支えてくださっている皆様に深く感謝の意を申し上げます。

そして、本日、同窓生をはじめ、本会の趣意にご賛同いただいた皆さんを この会場にお招きできなかったことも大変 残念に思っております。しかしながら、様々な制約の中、本日ここ、岐阜 グランドホテルにて 皆様のご臨席を賜り、予定通り開催できましたことは、大変感慨深く、意料無限でございます。

本日は、大変ご多用の中、岐阜県定通教育振興会 会長・岩田勝美様をはじめ、ご来臨いただきました皆様方には、心から感謝申し上げます。こうして記念式典を開催できるのは、今日まで母校を愛し 歴史を創っていただきました、すべての方々のお陰だと思います。心より御礼申し上げます。

また、このような状況下においても、生徒 1 人 1 人を温かくサポートしてくださり、質の高い教育や環境の維持に努めてくださいました保護者の皆様、教職員の皆様、修学意欲や未来への展望など精神的なサポートをして下さる様子が伺え、感謝に堪えません。

さて、本校の前身は勤労青年の為に昭和六年 全国初の県立夜間中学として誕生いたしました。当時は、不景気の絶頂で 教育予算も削られる中、校舎は、岐阜中学の校舎を利用し、先生方も兼任していただきながらの 門出で御座いました。今では発展的に校名を変更しつつ 県立華陽フロンティア高校となり 定通の中心校としての役目を果たしております。そんな母校への思いを水引に込めて、本事業を記念し ログマークを考案しました。これは、岐阜第三中学を前身に、華陽夜間・通信、華南高校をはじめ母校へ心を寄せていただいている 卒業生 約一万五千名、合わせて 私達をお導き頂いた先生方、そのほか、多くの皆様の願いを花びら一枚一枚に乗せ、九十周年への思いに華陽の「華」を添えました。

コロナウイルスを乗り越えたこの先 あと十年は、今よりもさらに想像力を超えた素晴らしい未来に向け、私たちの足元をしっかりと固めなければならないと感じています。

国連サミットで採択された「2030アジェンダ」は人々の生活のあり方にまで踏み込んだ 斬新 かつ 高い理想を掲げる 国際社会 共通の十七の目標です。「いつでも・だれでも・元気に・いろいろ」、を掲げ、発展している母校を見て、今 盛んに言われている「誰も置き去りにしない」を実感いたしております。

私は、とある会議に出席した折、本校の卒業生と挨拶を交わしました。その方は、小学生の時、ご自身が不登校を経験されておられました。しかし今年、教員免許を取得され、現在は、発達障害の生徒を受け持っているとのことでした。「私の不登校の経験は、すべて意味があり、無駄ではなかったことを確信している」とおっしゃいました。正に人の痛みが分かる先生ではないでしょうか。

今後、本校に寄せられる期待は、益々大きく成って参ります。伝統は守るだけではなく、時代の変化を見据え、改革とイノベーションにより築かれてゆくもの。この後も、わが母校は、伝統のその先の、歴史を刻む人を育てていく場所であり続けて 頂きたいと存じます。

希望溢れる新校舎の完成を待ち望み、次の十年「栄光の創立百周年」を目指して行く決意です。

最後になりますが、重ねて皆様の今後一層のご指導と、ご支援をお願い申し上げますと共に、本日 記念式典を企画運営していただいた実行委員・事務局の皆様、ご協賛いただきました企業各位、すべての方々のご尽力に感謝申し上げ、皆様の益々のご健康とご活躍を祈念し、式辞といたします。

令和三年十一月三日

岐阜県立華陽フロンティア高等学校  
創立九十周年感謝記念事業実行委員会  
実行委員長 廣瀬 富久夫